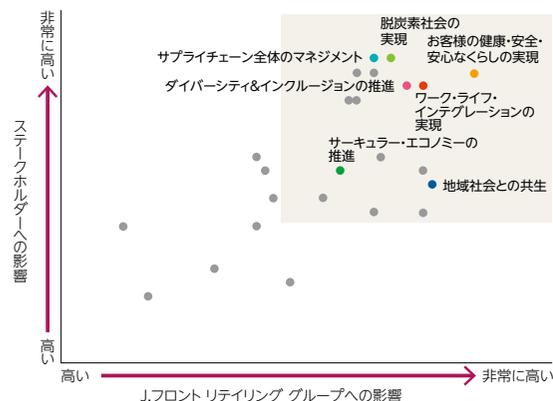


→ JFRのマテリアリティ マテリアリティのKGI・KPIとその進捗

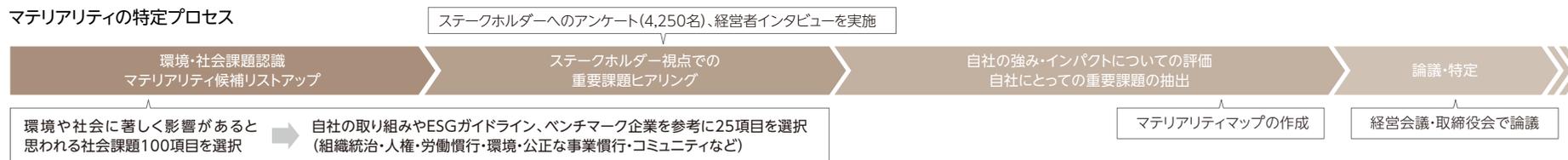
JFRのマテリアリティ

JFRグループは、サステナビリティ経営の推進、グループビジョンのゴールである「Well-Being Life」の実現に向けて、7つのマテリアリティを特定しています。特定したマテリアリティについて、リスクと機会の両面を捉え、それぞれのマテリアリティでビジネスチャンスを生み出し、社会的価値と経済的価値を同時に実現するCSVを目指しています。

マテリアリティマップ



マテリアリティの特定プロセス



- 2018 マテリアリティ5項目を選定
- 「低炭素社会への貢献」
 - 「サプライチェーン全体のマネジメント」
 - 「地域社会との共生」
 - 「ダイバーシティの推進」
 - 「ワーク・ライフ・バランスの実現」



- 2021 マテリアリティ2項目を追加、3項目を更新
- 「脱炭素社会の実現」
 - 「サーキュラー・エコノミーの推進」
 - 「サプライチェーン全体のマネジメント」
 - 「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」
 - 「ワーク・ライフ・インテグレーションの実現」
 - 「お客様の健康・安全・安心な暮らしの実現」
 - 「地域社会との共生」

JFRのマテリアリティ → マテリアリティのKGI・KPIとその進捗

マテリアリティのKGI・KPIとその進捗

 <p>環境と共に</p> <p>脱炭素社会の実現</p>	<p>2030年KGIコミットメント</p>	<p>脱炭素社会をリードし次世代へつなぐ地球環境の創造</p> <p>私たちは、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐため、再生可能エネルギーの調達拡大や、省エネルギーの徹底等に全社一丸となって取り組み、脱炭素社会の実現に貢献します。</p>			
	<p>背景と考え方</p>	<p>化石燃料への依存からの脱却を目指す「脱炭素化」が世界的な潮流となっていることを受け、JFRグループは、再生可能エネルギーの活用等による「脱炭素社会の実現」を最重要課題として位置付けています。</p>			
	<p>リスクと機会</p>	<p>指標</p>	<p>2021年実績</p>	<p>2023年KPI</p>	<p>2030年KPI</p>
	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー由来電力使用量の増加による調達コストの増加 ● 環境課題や消費行動の多様化への対応遅れによるレピュテーションの低下 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業モデルの抜本的な変革による再成長 	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2 温室効果ガス排出量 ● 事業活動で使用する電力に占める再生可能エネルギー比率 ● 創エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 36.7%削減 (2017年度比) (Scope1・2排出量122,812t-CO₂) ● 20.3% 10.0%増 (2020年度比) (再エネ電力量62,156MWh) — 	<ul style="list-style-type: none"> ● 40%削減 (2017年度比) ● 40% ● 新電力事業会社との協業による再生可能エネルギー自家発電の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 60%削減 (2017年度比) ◎2050年度ネットゼロ ● 60% ● 新電力事業会社との協業による再生可能エネルギー自家発電・自家消費の拡大

 <p>環境と共に</p> <p>サーキュラー・エコノミーの推進</p>	<p>2030年KGIコミットメント</p>	<p>サーキュラー・エコノミーの推進による未来に向けたサステナブルな地球環境と企業成長の実現</p> <p>私たちは、お取引先様やお客様との協働により、新たな環境価値を生み出すための革新的なビジネスモデルを創造し、サーキュラー・エコノミーにおける競争優位性を獲得します。</p>			
	<p>背景と考え方</p>	<p>大量生産、大量消費を前提とした従来型のリニア・エコノミーによる環境問題の深刻化が世界的に課題となる中、JFRグループは、2021年、資源や製品の価値を最大化する「サーキュラー・エコノミーの推進」を新たなマテリアリティの一つと位置づけました。</p>			
	<p>リスクと機会</p>	<p>指標</p>	<p>2021年実績</p>	<p>2023年KPI</p>	<p>2030年KPI</p>
	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境配慮型製品の需要増等、マーケット変化への対応遅れによる成長機会の喪失 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サーキュラー型ビジネスへの新規参入による新たな成長機会の拡大 ● 環境配慮型製品・サービスの需要増への対応による収益の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃棄物排出量 (食品廃棄物含む) ● エコフによるリサイクル回収量 ● リサイクル・リユース ● シェアリング・サブスクリプション・アップサイクル等事業 	<ul style="list-style-type: none"> ● 11.9%削減 (2019年度比) ● 累計1,101t ● ギフトカタログの回収・リサイクルを開始 ● ファッションサブスクリプション事業「アナザーアドレス」スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ● 15%削減 (2019年度比) ● 累計1,500t ● お取引先様やお客様との協働による使用済み製品のリサイクルや再製品化の実現 ● お取引先様との協働によるシェアリング・アップサイクル等事業への新規参入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 50%削減 (2019年度比) ● 累計3,000t ● お取引先様やお客様との協働による使用済み製品のリサイクルや再製品化の拡大 ● お取引先様との協働によるシェアリング・アップサイクル等事業のシェア拡大

JFRのマテリアリティ → マテリアリティのKGI・KPIとその進捗



サプライチェーン全体のマネジメント

<p>2030年KGIコミットメント</p>	<p>お取引先様とともに創造するサプライチェーン全体での脱炭素化の実現</p> <p>私たちは、お取引先様とともに、環境に配慮した製品やサービスの調達等に取り組むと同時に、再生可能エネルギー化、省エネルギー化に取り組み、サプライチェーン全体での脱炭素社会の実現に貢献します。</p>				
	<p>背景と考え方</p> <p>脱炭素社会の実現に向けて、企業は自社の事業活動だけでなく、サプライチェーン上の活動に伴う温室効果ガス排出量も把握・管理することが求められており、重要視されています。JFRグループは、お取引先様と協働し、Scope3排出量削減を目指しています。</p>				
	リスクと機会	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI
	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お取引先様が新たに開発した製品・サービスへの対応遅れによるレピュテーション低下 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● お取引先様やお客様との協働によるリユース製品、リサイクル製品の取り扱い拡大による収益拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope3温室効果ガス排出量 	<ul style="list-style-type: none"> ● 17.3%減(2017年度比) (Scope3排出量2,420,492t-CO₂) ● お取引先様説明会の実施 (2022年4月開催、253社参加、大丸松坂屋百貨店) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 10%削減(2017年度比) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 40%削減を目指す (2017年度比) ◎2050年度ネットゼロ
	<p>2030年KGIコミットメント</p> <p>私たちは、お取引先様とサステナビリティに対する考え方を共有し、共に社会的責任を果たすことを通じて、サプライチェーン全体で持続可能な未来の社会づくりに貢献します。また、お取引先様とともに、サプライチェーンで働く人々の人権が守られ、健康に働き続けることができる職場環境づくりを実現します。</p>				
	<p>背景と考え方</p> <p>サプライチェーン上で発生する差別や強制労働などの人権問題、新型コロナウイルス感染症の拡大・長期化は、サプライチェーンに大きな影響を及ぼしています。JFRグループは、サプライチェーンに潜むリスクに対応し、持続可能なサプライチェーンの構築を目指しています。</p>				
リスクと機会	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI	
<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商品・サービス調達の不安定化 ● 人権侵害など社会課題への未対応によるレピュテーションの低下 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 商品・サービスの安定的な確保 ● 強靱なサプライチェーン構築による事業のレジリエンス強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● JFRお取引先様行動原則の浸透 ● 人権 	<ul style="list-style-type: none"> ● お取引先様アセスメント実施： 回答率40.6%、浸透率60% ● JFRお取引先様行動原則共有 (パルコ) ● 人権アセスメント実施 ● 2022年度人権リスクの特定 	<ul style="list-style-type: none"> ● アセスメントの回答率80%、 浸透率25% ● 人権デューデリジェンスの取り組み拡大 ● 従業員への人権教育実施率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ● アセスメントの回答率95%、 浸透率100% ● お取引先様と従業員の人権が 尊重される事業活動の定着 	

JFRのマテリアリティ → マテリアリティのKGI・KPIとその進捗



ダイバーシティ&インクルージョンの推進

<p>2030年KGIコミットメント</p> <p>背景と考え方</p> <p>リスクと機会</p>	<p>すべての人々がより互いの多様性を認め個性を柔軟に発揮できるダイバーシティに富んだ社会の実現</p> <p>私たちは、多様性と柔軟性をキーワードに、ステークホルダーすべての人がダイバーシティの本質である異なる個性や視点を大切にし、多様な能力を発揮できる企業をつくります。また、多様な個性や能力が相互に影響し、機能し合うこと（インクルージョン）により、イノベーションを生み出し、多様なお客様の期待に応え事業の成長を目指します。</p>			
	<p>少子高齢化による労働人口の減少が社会問題となっています。JFRグループは、女性やシニア、中途採用など、多様な人がともに働く環境となっています。そのため、マテリアリティをさらに一歩進め「ダイバーシティ&インクルージョンの推進」として、多様な能力を尊重し、一体性を生み出すことで、企業の競争力強化につなげます。</p>			
	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI
	<p>●女性管理職比率</p> <p>●定年延長</p> <p>●障がい者雇用率(関係会社の特例範囲)</p> <p>●ダイバーシティの企業文化醸成</p>	<p>●21.3%</p> <p>●65歳定年導入事業会社(大丸松坂屋百貨店、JFRカード、大丸興業、JFR情報センター)</p> <p>●2.66%(2021年6月時点)</p> <p>●LGBTに関する制度(同性パートナーシップ規則、性別移行支援休暇)の制定、LGBT相談窓口の新設</p> <p>●LGBTに関するイベントを店舗で開催</p> <p>●アンコンジャスバイアスアンケート実施(従業員対象、2022年3月)</p>	<p>●26%</p> <p>●2025年度 30%</p> <p>●65歳定年を導入する事業会社拡大</p> <p>●2.6%</p> <p>●ダイバーシティ&インクルージョンの従業員への浸透100%</p> <p>●LGBT等多様なお客様への売場・商品・サービスへの展開</p>	<p>●労務構成比と同等の50%を目指す</p> <p>●70歳定年を目指す</p> <p>●3.0%</p> <p>●ダイバーシティ&インクルージョンから生まれる多様な能力の発揮による事業成長の実現</p> <p>●多様なお客様への売場・商品・サービスの展開</p>
	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●変化に対応しないことによる組織の競争力低下、優秀な人材の流出や人材獲得競争での劣後 ●従業員のモチベーション低下 ●従来の組織体制の保持による成長の停滞 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●組織の生産性向上、優秀人材の獲得 ●従業員のエンゲージメント、組織力の向上 ●事業戦略の推進、イノベーションの創出による企業価値の向上 			



ワーク・ライフ・インテグレーションの実現

<p>2030年KGIコミットメント</p> <p>背景と考え方</p> <p>リスクと機会</p>	<p>多様性と柔軟性を実現する未来に向けた新しい働き方による従業員とその家族のWell-Beingの実現</p> <p>私たちは、ニューノーマル時代の新しい働き方として、多様性と柔軟性をキーワードにした働き方を促進し、同時に心身の健康を保ちます。これにより、従業員と家族のWell-Beingを実現し、組織の生産性向上につなげます。</p>			
	<p>ITの進化や、仕事と育児・介護を両立する人の増加、新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方が多様化しています。JFRグループは、2021年、マテリアリティを「ワーク・ライフ・インテグレーションの実現」に進化させ、従業員が仕事と生活の双方を充実させることに取り組み、企業の生産性向上につなげます。</p>			
	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI
	<p>●育児・介護離職率</p> <p>●男性育児休職取得率</p> <p>●働き方</p> <p>●従業員満足度(従業員満足度調査)</p>	<p>●1.4%</p> <p>●43.6%</p> <p>●テレワーク制度の拡充</p> <p>●「J.フロントリテイリング健康宣言」策定</p> <p>—</p>	<p>●1.0%未満</p> <p>●100%</p> <p>●いつでもどこでも働ける組織構築への制度・評価の定着</p> <p>●60%</p>	<p>●0%</p> <p>●性別問わず100%</p> <p>●いつでもどこでも働ける組織による生産性の向上</p> <p>●80%</p>
	<p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ●変化に対応しないことによる組織の競争力低下、優秀な人材の流出や人材獲得競争での劣後 ●従業員のモチベーション低下 <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ●組織の生産性向上、優秀人材の確保 ●従業員のエンゲージメント、組織力の向上 			

JFRのマテリアリティ → マテリアリティのKGI・KPIとその進捗



お客様の健康・安全・安心な暮らしの実現

2030年KGI コミットメント	未来に向けたお客様の心と身体を満たすWell-Beingなくらしの実現 私たちは、お客様の心身ともに健康なくらし、安心なくらしに寄り添う高質で心地よい商品やサービスを提供することにより、お客様それぞれの自分らしいWell-Beingと心豊かなワクワクする未来を提案します。			
背景と考え方	コロナ禍を契機に、消費者の価値観や生活様式は大きく変化し、環境や社会課題の解決、健康につながる商品やサービスへのニーズが高まっています。JFRグループは、このような外部環境の変化を背景に、お客様の健康・安全・安心の実現に向け、2021年から新たなマテリアリティとして取り組みを強化しています。			
リスクと機会	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI
リスク ● 消費者ニーズとのアンマッチによる顧客離反 ● 頻発する自然災害・疫病による店舗休業などの販売機会の喪失 機会 ● 新規マーケットの創造 ● 消費者の価値観の変容を捉えた製品・サービスの開発 ● エシカル消費に関心の高い顧客層の獲得	● エシカル消費	● エシカル商品を扱うショップの誘致	● 食品安全と環境保全に関する認証商品の取扱い強化スタート	● ライフスタイル全般におけるエシカル消費の拡大
	● 心と身体の健康	● 医療ウェルネスモール「Welpa(ウェルパ)」をオープン(心斎橋PARCO) ● ショールーミングスペース「明日見世」をオープン(大丸東京店)	● 伝統文化やアート、カルチャーなどのエンタテインメント事業の領域拡大 ● ウェルネス事業の立ち上げ	● エンタテインメント事業やウェルネス事業の拡大による生活の彩りの提供と新たな顧客体験の創出
	● サステナビリティ活動に対するお客様の認知度・共感性	—	● 30%	● 80%
2030年KGI コミットメント	未来を見据えた安全・安心でレジリエントな店づくりの実現 私たちは、防災や感染症リスク、BCP(事業継続計画)に対応し、店舗のレジリエンスを高めます。また、それと同時にデジタルを活用したオペレーションを構築することで、安全・安心に配慮した新しい顧客接点を創造し、社会の期待に応える店づくりを推進します。			
背景と考え方	コロナ禍を経て、感染予防を念頭においた安全・安心へのニーズが高まっています。JFRグループは、安全・安心にお買い物を楽しんでいただけるよう非接触によるコミュニケーションに積極的に取り組みます。			
リスクと機会	指標	2021年実績	2023年KPI	2030年KPI
リスク ● 消費者ニーズとのアンマッチによる顧客離反 ● 頻発する自然災害・疫病による店舗休業などの販売機会の喪失 機会 ● 新規マーケットの創造 ● 消費者の価値観の変容を捉えた製品・サービスの開発	● BCP・防災・防疫	● 「JFR新型コロナウイルス対応マニュアル」の制定 ● 催事・ギフトセンターのバーチャル化	● BCPの高度化と防疫対策の強化 ● デジタルを活用したコミュニケーションによる非接触での顧客接点の強化	● 最先端テクノロジーを取り入れ、防災・防疫に対応したレジリエンスの高い店づくりと、健康に配慮した快適で心地よい空間の提供

JFRのマテリアリティ → マテリアリティのKGI・KPIとその進捗



地域社会との共生

2030年KGI
コミットメント

地域の皆様とともに店舗を基点とした人々が集う豊かな未来に向けた街づくりの実現

私たちは、地域のコミュニティ、行政、NGO・NPOとともに、店舗を基点として、地域資産をいかした持続可能な街づくりに貢献します。また、地域の魅力を発掘・発信することで、街に集う人々にワクワクするあたらしい体験を提供します。

背景と考え方

少子高齢化が進む一方で、都市部へ人口が集中する中、地域の魅力向上や地域活性化が社会課題となっています。また、企業には都市部だけではなく、地方の活性化への取り組みが求められています。JFRグループは、全国にある店舗を中心とし、地域社会とともに地域の魅力向上に取り組んでいきます。

リスクと機会

指標

2021年実績

2023年KPI

2030年KPI

- リスク
- 都心立地の従来型商業施設の集客力低下
- 機会
- 都市機能の分散化に対応した事業展開

- 地域開発
- 地域コミュニティとの連携

- レジデンス事業への参入
- 大丸須磨店に「市立図書館」を開設

- 文化や歴史をはじめとする地域の特徴をいかした街の魅力向上、街の賑わい創出に資する開発
- 店舗のCSV化(サステナビリティ化)の横展開
- 行政、教育機関、NGO・NPOとの連携による地域活性化の推進
- 地産地消などローカルティコンテンツの発掘・発信による地域活性化の推進